

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：32649

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02872

研究課題名(和文) 北海道移住者と先住社会との関係史的研究 明治初期の有珠・幌別・室蘭・白老の比較史

研究課題名(英文) Study of related history that Immigrant and the previous dwelling people in Hokkaido; Utsunomiyama and Horobetsu, Muroran, Shiraoi, in early years of Meiji era.

研究代表者

檜皮 瑞樹 (HIWA, MIZUKI)

東京経済大学・史料室・その他

研究者番号：00454124

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀の北海道移住と地域社会との関係史に関する比較史研究である。巨理伊達家家臣団、白石片倉家家臣団、角田石川家家臣団を分析対象とし、関連する基礎的な資料を調査するとともに目録化作業を実施した。仙台伊達家中である三つの家臣団が相互に連携しながら北海道移住及び移住後の開拓をすすめたこと、移住後もかつての居住地である宮城県仙南地域との継続的な交流が存在したことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research is study of related history that Immigrant and the previous dwelling people in 19th Hokkaido, and became a catalog of this material group that Samurai vasall the "Watari Date" and "Shiroishi Katakura" and "Kakuda Ishikawa". These Samurai vasall group cooperated and moved to Hokkaido. After they moved, they kept interchanging with an area before a move.

研究分野：日本史

キーワード：日本近代史 北海道史 移住者研究 地域社会史

### 1. 研究開始当初の背景

(1) アイヌ史、及び北海道史研究においては、アイヌ統治政策における暴力性という共通基盤に立ちながらも、和人による暴力を生み出した蝦夷地社会の特質性や和人のアイヌ観に関する歴史学からのアプローチ、在地レベルでのアイヌと和人(その多くは幕府官吏及び本州からの移住者である)との接触を対象とした歴史研究、在地レベルでのアイヌ統治政策の展開とその問題点を取り上げた研究、という新たな視角からの研究が進められているという状況であった。

(2) アイヌ民族と和人社会との関係、特に明治維新以後(近代史)における地域社会レベルでの両者の接触とコンフリクトを対象とした歴史学からのアプローチに関する歴史研究は漸く端緒についた段階であった。

(3) 以上のような研究状況から、移住者による在地社会形成と先住者であるアイヌ社会との接触への着目、移住者と先住者との接触を地域社会レベルで検討することが課題となっていた。また、これらの課題克服のためには、移住者(主には集団移住武士団)関係資料、及びアイヌ民族関係資料(多くは支配者である和人側の資料)に関する新しい資料の調査・研究が不可欠であった。

### 2. 研究の目的

(1) 19世紀の蝦夷地(北海道)における植民地支配と、主たる統治対象者であった先住民族であるアイヌとの接触に関する比較史的検討を目的とした。

(2) 明治初期に蝦夷地へ集団移住した仙台藩伊達家家臣団を対象とし、移住先でのコミュニティ形成及び既存和人社会との接触、先住アイヌ民族との接触とコンフリクトという2点の課題を解明することを目的とした。

(3) 東北諸藩(仙台藩一門・一家)の移住先である有珠郡・幌別郡・白老郡・室蘭郡、及び北海道内での再移住先である札幌郡を含めた比較史的検討を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 北海道移住計画から移住後の指導的な立場にあった田村顕充の子孫が保有する「田村家文書」は移住以前からの文書を含む大規模な資料群であり子孫の田村一彦氏が所蔵している。2012年度より資料調査を開始、既に整理・撮影を完了している。本研究期間においては目録化の作業をすすめると同時に、並行して資料の分析・研

究を実施する。

(2) 北海道博物館が所蔵する「白石藩移住関係資料」(巨理伊達家と同時期に北海道へ移住した白石片倉家家臣団関係資料)の調査・撮影を実施する。

(3) 室蘭市立図書館が所蔵する「添田家文書」(白石片倉家の幌別郡への移住関係資料)の調査・撮影を実施する。

(4) 北海道立文書館が所蔵する移住武士団により土地取得関係資料(開拓使貫属土族関係資料、北海道国有未開地処分法関連資料など)の調査・撮影を実施する。

### 4. 研究成果

(1) 「田村家文書」の目録化作業を実施し仮目録を作成した。目録点数は1147レコードであり、近世期(宮城県巨理郡時代)の資料を含みながらも、幕末期から戦後初期までの資料群であることが明らかとなった。特に、北海道移住前後の行政手続きに関する資料は歴史的に貴重なものであり、今回の目録化作業を通じて、資料群の全体像を把握することが可能となった。

(2) 北海道博物館において、「斉藤勝子家資料」(白石片倉家家臣団関係資料、全434点の内、関連資料86点の撮影を実施した)及び「白石藩移住後継者団体寄託資料」の調査を行なった(2016年3月及び同年12月)。

(3) 「添田家文書」(室蘭市立図書館所蔵)の調査を2018年2月に実施し、仮目録をもとに関連資料の撮影を行なった。幌別郡への移住関係資料として63点の資料を撮影した(2062コマ)。

(4) 武家家臣団北海道移住の比較史的検討のため研究会を実施した。その結果として仙台藩からの移住武士団に相互の連絡・協力体制が存在したこと、移住後も非移住者や移住元地域との密接な関係が存在したことを明らかにした。その成果については、2018年度中に論文集として刊行予定である。

(5) 研究成果については以下のように広く社会に発信した。

第一には、2015年8月には伊達市主催の「総合博物館スタートアップ展示」において、研究代表者・檜皮瑞樹が「歴史を編むことと歴史展示」と題して北海道移住に関する歴史展示が抱える資料的課題についての講演を行なった。また、分担者伊達元成及び研究協力者三野行徳を中心に「資料整理デモンストレーション『古文書史料整理のイロハ』」と題して地域社会に点在す

る移住関連資料の保存や整理方法についての講座を実施した。

第二には、2017年11月には東北大学で開催された学術交流連携講演会「北海道と本州のつながりを遺物から紐解く」において、研究協力者・工藤公平が「伊達市に伝わる古文書資料から読み解く幕末の伊達家とその家臣」という講演を行なった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5件)

1. 久留島浩、「『ミュージアムと未来をつくる』 ミュージアムの果たす役割と可能性」、『Newsletter【噴火湾文化】』、査読無、12号、2018年、pp.3-5
2. 檜皮瑞樹、「明治期の対馬と朝鮮半島 朝鮮人漂流民の事例から」、『大原社会問題研究所雑誌』、査読無、706号、2017年、pp.4-19
3. 檜皮瑞樹、「蝦夷地・アイヌ支配から仁政を考える」、『アジア民衆史研究』、査読無、21集、2016年、pp.42-55
4. 檜皮瑞樹、「訴願と救済 19世紀のアイヌ・和人関係から」、『史潮』、査読無、79号、2016年、pp.4-27
5. 伊達元成、「兜プロジェクションマッピング；全周投影を用いた文化財展示の提案」、『映像情報メディア学会技術報告』、査読無、40-11、2016年、pp.299-302

[学会発表](計 6件)

1. 伊達元成、「みんなで守る地域の歴史資産 地域の歴史・文化を後世へ受け継ぐための保全措置」、『第56回北海道博物館大会、2017年、帯広百年記念館
2. 久留島浩、「ミュージアムと未来をつくる」、『だて歴史文化ミュージアム スタートアップ講演会(招待講演) 2017年、だて歴史の杜カルチャーセンター
3. 久留島浩、「博物館における歴史展示の可能性 - 歴史的共感能力を鍛えるために」、『第16回日韓歴史家会議、2016年、都市センターホール
4. 檜皮瑞樹、「蝦夷地・アイヌ支配から仁政を考える」、『アジア民衆史研究会シンポジウム;「仁政」理念と19世紀日本、2016年、明治大学
5. 檜皮瑞樹、「19世紀のアイヌ・和人関係と主体」、『歴史学会第40回大会、2016年、明

治大学

[図書](計 3件)

1. 東京歴史科学研究会編、『歴史を学ぶ人々のために』(檜皮瑞樹「境界・周縁からの視座」)、岩波書店、2017年
2. アジア民衆史研究会編、『日韓民衆史研究の最前線』(檜皮瑞樹「マイノリティ研究と『民衆史研究』」)、有志舎、2015年
3. 久留島浩、『描かれた行列：武士・異国・祭礼』、東京大学出版会、2015年

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

檜皮瑞樹 (HIWA MIZUKI)  
東京経済大学・史料室・嘱託  
研究者番号：00454124

##### (2) 研究分担者

久留島浩 (KURUSHIMA HIROSHI)  
国立歴史民俗博物館・教授  
研究者番号：31061772

伊達元成 (DATE MOTOSHIGE)  
伊達市噴火湾文化研究所・研究員  
研究者番号：70620897

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

工藤航平 ( KUDO KOHEI )

石田七奈子 ( ISHIDA NANAKO )